

人間総合科学研究科 大学体育スポーツ高度化共同専攻（3年制博士課程）

実践的教育能力育成科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JD001	大学体育論	4	1.0	1	春ABC	集中		木内 敦詞, 小林 勝法	体育以外を専攻する大学生対象の教養(共通)科目としての体育授業を一般に「大学体育」と呼ぶ。本講では、今日の大学体育教員に求められる職務を理解するとともに、大学体育の教育の質保証に繋がる知見を体系的に学ぶ。	4/14, 5/12, 6/16, 7/7 筑波大学体育科学系棟 B323
02JD002	大学体育授業演習I	2	2.0	1	通年	随時		木内 敦詞, 白木 仁, 高木 英樹, 鍋倉 賢治, 坂本 昭裕, 長谷川 悦示	新入生対象の大学教養体育授業を対象に、主に体育科教育学で確立されてきた体育授業の観察評価方法を体系的に学ぶ。マルチ映像撮影分析システムを用い、スポーツ動作や教師行動の改善に役立てる。体育授業を観察評価する為の分析的な知識・技能・態度を総合的に獲得することを到達目標とする。大学体育・大学スポーツの教育・指導の現場に活かせる実践的研究テーマを複数考案し、研究計画書としてまとめたレポートにより評価する。	
02JD003	大学体育授業演習II	2	2.0	2・3	通年	随時		木内 敦詞, 白木 仁, 高木 英樹, 鍋倉 賢治, 坂本 昭裕, 長谷川 悦示	2年次生対象の大学教養体育授業を演習の場とする。授業担当の経験を学びの出発点とした現実的な演習とするため、授業実践と自己省察の往還を詳細に記録し、ティーチング・ポートフォリオを作り上げる。授業の目標・内容・評価を関連づけながら、効果的・効率的・魅力的な教授法と自省的省察の効果的な循環を実践することができることを到達目標とする。自立的な省察力の獲得の程度を、授業場面、省察記録、面談等から、総合的に評価する。	
02JD004	大学体育授業演習III	2	2.0	2・3	通年	随時		木内 敦詞, 白木 仁, 高木 英樹, 鍋倉 賢治, 坂本 昭裕, 長谷川 悦示	集中授業形式の大学教養体育授業を演習の場とする。授業担当の経験を学びの出発点とした現実的な演習とするため、授業実践と自己省察の往還を詳細に記録し、ティーチング・ポートフォリオを作り上げる。授業の目標・内容・評価を関連づけながら、効果的・効率的・魅力的な教授法と自省的省察の効果的な循環を実践することができることを到達目標とする。授業場面の行動、省察記録、面談等から、自立的な省察力の獲得の程度を総合的に評価する。	
02JD005	体育スポーツ実践的指導演習	2	2.0	1	春学期	金2		高木 英樹	大学体育スポーツを先導する実技教育能力を身につけるために大学体育スポーツの指導者としての専門的知識・態度について概説し、大学体育スポーツ指導の計画と実践を通して実技教育能力を養成する。	遠隔授業 鹿屋体育大学

実践的研究能力育成科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JD101	体育スポーツ実践的研究方法論	1	1.0	1	春ABC	集中		高木 英樹	スポーツの実践現場へ貢献するための実践的研究の方法論について概説する。特に大学体育および大学スポーツを対象に、その実践の現場で起こる様々な事象について、直接的に寄与する知見(実践の知)を得るための研究方法論について学ぶ。	4/14, 5/12, 6/16, 7/7 遠隔授業 鹿屋体育大学。体育科学系棟B323にて実施。
02JD102	体育スポーツ実践的研究演習I	2	2.0	1	秋学期	木1		高木 英樹	体育およびスポーツにおける実践的な研究とは何かを理解し、自身でも論文の作成ができるようになるための方法論を学ぶ。当該研究の発表の場である『スポーツパフォーマンス研究』に掲載された過去の論文を講読し、それを題材として実践的研究とは何か、またどのように論文をまとめるべきかについて理解を深めるとともに、自身のデータをもとに実践的研究の論文としてまとめる作業を行う。	遠隔授業 鹿屋体育大学
02JD103	体育スポーツ実践的研究演習II	2	2.0	2・3	春学期	木1		高木 英樹	体育およびスポーツにおける実践的な研究能力を身につけるために、受講者が関わっている体育やスポーツの現場において、自らがデータを収集し、それを実践研究の論文としてまとめ、『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとする、実践的な研究論文を掲載する雑誌に投稿・掲載するための作業を行う。	遠隔授業 鹿屋体育大学
02JD104	体育スポーツ実践的研究演習III	2	2.0	2・3	通年	集中		高木 英樹	モーションキャプチャー、フォースプレートやハイスピードビデオ等の先端的な研究機器をスポーツパフォーマンス研究棟や体育館、グラウンドに設置して、体育・スポーツの実践的研究能力を向上させるための演習を行う。 鹿屋体育大学SPLab等で実施予定。	遠隔授業 鹿屋体育大学

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JD105	大学体育研究演習	2	2.0	1	春AB秋AB	金1		木内 敦詞	体育・スポーツに関する研究方法・論文執筆方法をテキスト『身体活動科学における研究方法』に沿って体系的に学ぶ。専門とする1つの狭い研究領域だけでなく、体育・スポーツ・健康科学に関する周辺領域の価値観や研究方法を理解することで、大学体育スポーツの発展に寄与する実践研究への着眼力を獲得することを到達目標とする。大学体育スポーツの教育・指導の現場に活かせる実践的研究テーマを複数考案し、研究計画書としてまとめたレポートにより評価する。	

高度指導者教養育成科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
01EH016	つくばサマインスティット	1	2.0	1・2	春C	集中		長谷川 悦示	筑波大学体育系と学術協定を結んでいる海外の大学と共同で企画する、英語を公用語とするプログラムである。体育・スポーツ領域にかかわる大学生・大学院生、若手研究者を対象とし、日本の体育・スポーツ文化を理解し、体育・スポーツ教育、スポーツ科学に関わる諸外国の現状と課題について情報を共有し、協力して国際的課題に取り組むグローバル人材として資質の向上を図ることをねらいとする。	受講者はガイダンス(6月5日 11:25~12:15, 5C212)に出席すること。
01ZZ411	国際インターンシップ	0	1.0	1 - 5	通年	応談		野村 港二	国際的な職業体験(海外の大学におけるPFF体験を含む)や海外の大学・研究機関が主催する各種トレーニングコースへの参加経験について、単位認定を行う。コーディネーターにより事前にプランニングされた海外の大学訪問・大学院生との交流等を含む。希望者はインターンシップ実施計画書をあらかじめ提出する。事前指導を重視するため、受講者は訪問前レポートを提出する。帰国後にもレポートを提出し評価を受ける。合格者に対しては、単位認定を行う。受講希望者はTWINSで受講申し込みをしたうえで、計画書を提出のこと。なお、渡航費の支援を希望する者は、応募期限に注意すること。	渡航費支援を希望する者は、「大学院共通科目HP」の応募要領を参照のこと。
02ER004	コーチングの哲学と倫理	1	1.0	1	春AB	月5		會田 宏, 河合 季信, 深澤 浩洋, 齋藤 健司, 山口 香, 本間 三和子, 浅川 伸, 向井 直樹, 勝田 隆	コーチの仕事と求められる資質および能力を理解するとともに、コーチング実践の根幹となる哲学と倫理について学習し、これからの時代にふさわしいコーチングを創造していく能力を養成する。また、授業を通してコーチングに関する哲学および倫理について深く論考し、それらを報告し議論させることをとおして、コーチとしての自らの倫理感や哲学感、視座を明確にする。	
02JD201	最先端スポーツ科学理論	1	1.0	1	通年	応談		高木 英樹	本授業では、大学体育や大学スポーツを先導する高度指導者に必要な教養として、体育スポーツ分野における最先端の生命科学や人文・社会科学領域の研究成果を概説し、その見識を深めることを目指す。授業は、鹿屋体育大学教員による講義、学外講師を招聘して開催する特別講義・研究セミナー、さらに論文指導研究会および学位論文発表会で実施される。	遠隔授業 鹿屋体育大学

博士論文研究能力育成科目群

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
02JD301	博士論文課題演習I	2	2.0	1	通年	随時		中川 昭, 白木 仁, 高木 英樹, 鍋倉 賢治, 坂本 昭裕, 木内 敦詞, 長谷川 悦示	査読つき学術誌への論文投稿に至るまでのプロセスを体系的に体験するなかで、自己の論文執筆に適した構造パターンを構築していく。査読つき学術誌への論文投稿までのプロセスを体験することを到達目標とする。学術誌への執筆・投稿の成果から評価する。	
02JD302	博士論文課題演習II	2	2.0	2・3	通年	随時		中川 昭, 白木 仁, 高木 英樹, 鍋倉 賢治, 坂本 昭裕, 木内 敦詞, 長谷川 悦示	春学期には、投稿論文に対する査読者からの指摘を正しく理解し、そのすべてに対して誠心誠意わかりやすく回答する作業を行う。査読者との文章でのやりとりを体験するなかで、自己の研究課題の意義や方向性を深く再検討していく。査読つき学術誌への論文受理を到達目標とする。秋学期には、QE(博士論文執筆開始資格認定検査)へ向けての準備を進める。査読つき学術誌の査読者との書面での議論を体験することを到達目標とする。本専攻の目指す3つの能力「実践的研究能力」「実践的教育指導力」「高度指導者教養」の水準を、QEによって評価し、これに合格することで単位認定される。	